

2014年9月30日

関係各位

一般財団法人 東方
理事長 興膳



ポスター掲示のお願い

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は本会事業活動にご協力を賜り深謝申し上げます。

さて、本会主催の秋季学術大会を、同封プログラムのとおり、来る11月8日(土)に奈良女子大学に於いて開催いたします。つきましては、ご多用中恐縮ながら同会議周知のため、ポスターのご掲示をお取り計らい頂きたいようお願い申し上げます。

なお、本会が所属しております東洋学・アジア研究連絡協議会でも12月13日(土)に東京大学に於いて講演会を開催いたします。こちらのポスターもご掲示いただければ幸いです。

以上書面にて略儀ながらご高配のほど重ねてお願い申し上げます。

敬具

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1

Tel.03-3262-7221 Fax.03-3262-7227

E-mail: iec@tohogakkai.com

URL: <http://www.tohogakkai.com>

シンポジウム 「東洋学・アジア研究の新たな振興をめざして」PART II

東洋学・アジア研究連絡協議会

会長 池田知久

日本と世界の東洋学・アジア研究の衰退の危機が指摘されて、すでに久しい。

このような危機の到来は、東洋学・アジア研究の研究者一人一人に対して、自己の学問のあり方を根本的に再検討しつつ、この危機を克服し関連する学問の新たな振興をめざすべきことを迫るものであります。それと同時に、自己の学問的ディシプリンや所属する研究機関・学協会の相異を超えて、多くの研究者が相互に連携・協同しあいながら、これに立ち向かっていくべきことを教えるものでもあります。

今日、この危機の克服方向の一つとして、以下のことが重要ではないかと思われます。——かつての日本の東洋学・アジア研究は、西欧に由来する普遍主義的な近代的学問を相対化して、東洋・アジアの文化的諸価値を、時空を超えた世界の普遍的真理という一色の絵具で塗りこめてしまうことのなかった長所を持っていました。こうした長所を活かしつつ、

一、21世紀に生きる現代の人間としての観点に立って、東洋・アジアにおける個別的な文化現象の諸価値を内在的に再構成すること。

二、こうした個別的な文化研究の積み重ねを総括する中で、東洋・アジアから世界に向かって発信する新しい人間科学 (Human Sciences) を興こすこと。

これらを実現する道を切り拓いていくことが重要なのではないのでしょうか。

私たち、約40の学協会は、2004(平成16)年9月、東洋学・アジア研究連絡協議会を設立しました。その目的は、東洋・アジアの諸文化を各種各様のディシプリンで研究する学協会が、将来におけるこの学問の一層の振興を図り、そのために相互の学術交流と連絡協議を行い、また国際的な東洋学・アジア研究の動きにも対応すること、などにありました。

東洋学・アジア研究連絡協議会は、以上の設立趣意と現状への課題意識に基づき、模索のための具体的な活動の一環として、昨年(2013年)12月、シンポジウム「東洋学・アジア研究の新たな振興をめざして」を開催いたしました。今年度はその趣旨を引き継ぎ、PART IIとして、下記の要領でシンポジウムを開催いたします。

シンポジウムの冒頭、私たちの課題意識と共通する日本学術会議の「人文科学的アジア研究の振興に関する提言」(2014年7月)についての報告と質疑を設けます。また、シンポジウムの講師は、近年、各分野において活発な研究活動を展開して新たな地平を切り拓こうと努めておられる、三名の先生にお願いしました。

研究者・学生・市民のみなさん、お誘いあわせの上、振るってご参加下さい。

シンポジウム「東洋学・アジア研究の新たな振興をめざして」PART II

日時：2014年12月13日(土)13時30分～17時

会場：東京大学法文2号館1番大教室

開会挨拶：池田知久(東京大学名誉教授、東洋学・アジア研究連絡協議会会長)

講師：岸本美緒（お茶の水女子大学教授、日本学術会議「アジア研究・対アジア関係に関する分科会」幹事）：「日本学術会議『人文学的アジア研究の振興に関する提言』（2014年7月）についての報告」

講師紹介・司会：斎藤 明（東京大学教授、日本印度学仏教学会）

中谷英明（関西外国語大学教授・東洋文庫研究員・東京外国語大学名誉教授、日仏東洋学会）：「実践知を基盤とする人文学の展望」

講師紹介・司会：斎藤 明（東京大学教授、日本印度学仏教学会）

阿部健一（総合地球環境学研究所教授、東南アジア学会）：「環境学という人間科学——『アジア』からの発信」

講師紹介・司会：島田竜登（東京大学准教授、東南アジア学会）

濱田正美（龍谷大学教授、内陸アジア史学会）：「『東洋学の危機』について」

講師紹介・司会：中見立夫（東京外国語大学教授、東アジア近代史学会）

〔総合討論〕司会：堀池信夫（筑波大学名誉教授、日本道教学会）

—入場無料・申込不要—

報告レジュメ集

中谷英明「実践知を基盤とする人文学の展望」

欧米の人文学は19世紀以来、人間と人間の社会という捉え難いものを科学的方法によって認識する営為を継続してきた。他方、アジアには、独自の博く深い人間学の伝統がある。それは認識枠組みにおいて西洋の人文学とは異なっており、また必ずしも認識に留まることなく実践知の側面も強く有する。日本のアジア学研究者はこの知を継承する者として、アジアの伝統の上にある、実践知を基盤とする人文学をも模索すべきであろう。

阿部健一「環境学という人間科学——『アジア』からの発信」

地球環境問題の解決には、人文社会系領域の参画が不可欠である。地域によって異なる価値観、それが反映された一人一人の生活のありかたが問題の根源にあるからだ。発表では具体的な例を示し、環境問題をあらたな人間科学の視野の中に取り入れる可能性を論じたい。世界の人口の3分の2が住むアジアは、環境の劣化は著しいが、その歴史と文化からは学ぶことも多い。欧米主導の環境学にアジアからの視点を提示したいのである。

濱田正美「『東洋学の危機』について」

19世紀のヨーロッパに於いて成立した「制度としての東洋学」はこの国には終に移植されなかった。しかしながら、「東洋」の厳密な定義はひとまず置くとしても、個別の「中国学」や「インド学」の枠に収まらない「東洋」に関する学知の探求は、過去も現在も存在している。いわゆる「東洋学の危機」は単に「東洋学」の問題ではなく、テキストを読むという営為の上に成立する「人文学」全体に関わる事柄である。

一般財団法人 東方学会

平成 26 年度秋季学術大会開催案内

東方学会の平成 26 年度秋季学術大会を来る 11 月 8 日(土)、奈良女子大学において下記の通り開催いたします。どなたでもご参加いただけます。参加ご希望の方は、準備の都合上 10 月 31 日(金)までに、住所・氏名・所属を明記の上、Fax あるいは E-mail でお申込みください。

連絡先：101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 一般財団法人 東方学会
Fax. 03-3262-7227, E-mail: iec@tohogakkai.com

参加費：1,000 円 懇親会費：3,000 円

記

期 日：平成 26 年 11 月 8 日(土) 11 時 50 分～18 時 30 分

会 場：奈良女子大学佐保会館

(奈良市北魚屋東町、Tel.0742-23-3805)

近鉄奈良駅から徒歩 5 分(出入口 1)

開 会 (11 時 50 分) 開会挨拶：京都支部長 礪波 護

講演会 (12 時～2 時 10 分)

12:00-1:00 漢代宮廷の原像

奈良女子大学教授 佐原 康夫

(講師紹介・司会) 奈良女子大学名誉教授 井上 裕正

1:10-2:10 人喰いの語りと異文化共存—北スマトラの事例から—

立教大学教授 弘末 雅士

(講師紹介・司会) 大阪大学大学院教授 桃木 至朗

研究発表 (2 時 30 分～4 時 10 分)

2:30-3:00 古代中国における国家儀礼の基本構造—東晋南朝を中心としてみた—

第 31 回東方学会賞受賞者・日本学術振興会特別研究員 戸川 貴行

(司会) 京都大学名誉教授 礪波 護

3:05-3:35 仏教教団における異見の扱い—ukkhepaniyakamma に注目して—

第 32 回東方学会賞受賞者・東京大学大学院特任研究員 青野 道彦

(司会) 京都大学前副学長 赤松 明彦

3:40-4:10 律令制下の倉庫管理—監臨官の不正と官物補填—

第 32 回東方学会賞受賞者・弘前大学講師 武井 紀子

(司会) 東京大学大学院教授 大津 透

第 33 回東方学会賞贈呈式 (4 時 30 分～4 時 50 分)

選考経過報告：選考委員会代表 斎藤 明

授 賞：理事長 興膳 宏

会員総会

会務報告 (4 時 50 分～5 時 10 分)

懇親会 (5 時 20 分～6 時 30 分)：会場＝大学ラウンジ

